

箕面市における家庭教育支援 —地域の資源を活かして—



大阪府箕面市教育委員会
人権教育課 松田隆史

NPO暮らしづくりネットワーク北芝
井原 芳朗

たきのみちゆずる

1

箕面市の紹介

■市制施行

昭和31年（1956年）
府内24番目の市として誕生

■面積（平成25年4月1日現在）

47.84平方キロメートル（全国653位）

■人口（平成25年4月1日現在）

132,614人（全国185位）

■教育施設

小学校14 中学校8
（2校は施設一体型小中一貫校）
幼稚園5 保育所5



箕面市の紹介



(地理)

大阪都心部まで車で約
20分

北部には豊かな自然

住宅地と商業地、農地が
混在



(教育)

小中一貫教育を基盤に教
育改革を推進

市内全小中学生を対象と
した学力調査を実施

家庭教育をめぐる現状と課題



児童生徒をめぐる状況

虐待、不登校、ひきこもり、高校中退、ニート
貧困、ひとり親家庭、外国人、アルコール・薬物中毒
高齢者、同和問題、人権問題、子育て支援・・・



様々な問題が重複する事例も

社会的排除の課題に・・・

学校だけでは抱えきれない。
官(行政)依存型では対応できない。



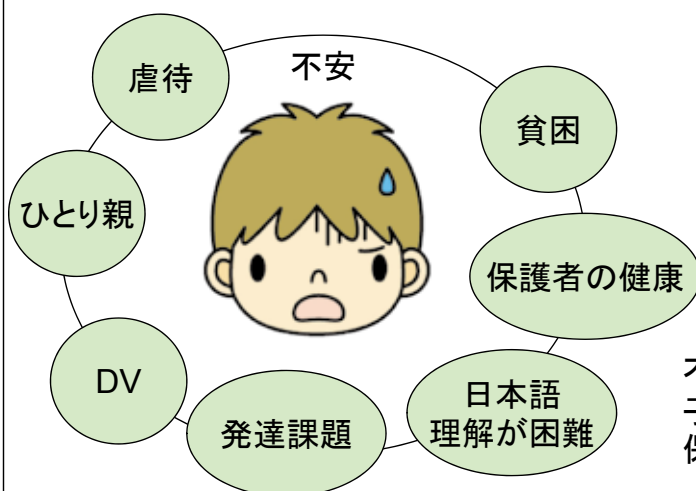
行政(公)と民間団体や市民グループ(私)の連携

「公」と「私」がヨコの関係で連携し、協働して福祉的援助や雇用確保などを推進していく。

家庭教育支援の概要



～家庭教育支援の入口は子ども支援～



不安、生きづらさを抱えた子どもの背景には子育てについて、不安や悩みを抱えている保護者がいる。

子ども支援をきっかけに、保護者への支援を行うことが有効

家庭教育支援の概要



～家庭教育支援の入口は子ども支援～

■対象

6中学校区、12校、15名の児童生徒を支援
(不登校・ひきこもり・不適切な養育環境等)

■支援員の属性

大学生、退職教員、民生委員児童委員
NPOのスタッフ・登録ボランティア
児童養護施設嘱託職員 等

■支援員の特性を生かした支援

趣味、特技を生かしたつながり(スポーツ、webサイトづくり、料理など)
学力支援
外出支援
進路選択への支援
地域の社会資源とつながりづくり (らいとぴあ21の事業・・・資料)

予算関係

～大阪府「教育コミュニティづくり推進事業」を活用して～



歳入

1中学校あたり12万6千円×6中学校区＝75万6千円

(国、大阪府、箕面市の3分の1ずつが負担する補助事業)

歳出

支援チームリーダーへの活動謝金・・・活動1回につき2千円

1中学校区あたりの活動回数・・・12万6千円÷2千円＝63回

全市的には、63回×6中学校区＝378回の支援活動を計画

支援員の活動の流れ



①学校へ

(前回訪問から今回までの情報共有)

③学校へ

(支援内容・児童生徒の様子への報告)



②家庭へ

(支援活動)

家庭教育支援のための社会資源



～子ども支援と保護者支援をともに進める～

子どもへの支援

- 学校園所
- 適応指導教室(フレンズ)
- 民生委員児童委員
- 家庭教育支援員

- 教育センター教育相談
- 青少年指導センター
- 子ども家庭相談課
- らいとぴあ21

コーディネーター

SSW(スクール・ソーシャルワーカー)

保護者への支援

- 社会福祉協議会
- 民生委員
- パーソナル・サポート・サービス

家庭教育支援のための社会資源



箕面市立萱野中央人権文化センター



平成7年 リニューアルオープン
生活相談、教育、子育て支援、貸館、図書館等の機能を有する

平成22年 NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝による指定管理が開始

家庭教育支援のための社会資源



らいとぴあ21の取組

人権文化の発信



暮らしのサポート



NPO暮らしづくりネットワーク北芝の取組

～パーソナル・サポートサービス～

パーソナル・サポート・サービスは、新成長戦略に基づき、様々な生活上の困難に直面している方に対し、**個別的・継続的・包括的に支援を実施するもの。**

寄り添い型・伴走型支援が特徴。相談者に対して、「パーソナルサポーター」が、制度の縦割りを乗り越え、**一対一**で生活や就労の相談にのり、必要な制度やサービスにつなぎ、**もどす役割を担う。**

国の事業は平成24年度末を持って終了したが.....

